

Press Release

沖縄労働局発表
令和3年4月30日(金)

担当

沖縄労働局労働基準部 健康安全課
課長 平良 喜作
安全衛生係長 小池 嘉教
電話:098(868)4402

職場での熱中症対策を徹底しましよう！

～令和3年も熱中症クールワークキャンペーンを展開！！～

沖縄労働局（局長 福味 恵）は、全国に合わせて職場における熱中症予防対策「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を令和3年5月1日から同年9月30日までの間、一斉に展開していきます。

1 热中症による労働災害の発生状況等

(1) 令和元年と令和2年の発生状況

<令和元年>

① 死亡	0人
② 休業4日以上	12人

<令和2年>

① 死亡	0人
② 休業4日以上	12人

令和2年は、前年同様死亡災害は発生しておらず、休業4日以上の被災者も12人、と前年と同数だった。また、前年は休業3週間以上の労働災害が5人発生するなど重篤化の傾向がみられたものの、令和2年の休業3週間以上の労働災害は1人であった。

令和2年に熱中症で4日以上休業した12人の発生状況をみると、業種では、運送業が4人、建設業が3人となっており、全体の3分の2程度を占めた。また、屋外における作業中に発症したものが8人、いずれもWBGT値(暑さ指数)^(※)が基準値を超え、熱中症の発生リスクが高い可能性のある環境下での作業中に発症したものと考えられる。

(別添1参照)

(※) WBGT値(暑さ指数)とは

気温、湿度、輻射熱から算出される指数で、熱中症予防のために運動や作業の強度に応じた基準値が定められており、基準値を超えると熱中症を発症する可能性が高くなる。

- (2) 県内における過去 10 年間（平成 23 年から令和 2 年）の熱中症による休業 4 日以上の労働災害から見える特徴については以下のとおり。
- ① 建設業が全体の 3 割以上を占めていること。
 - ② 働き盛りの 40 代が多いこと。
 - ③ 発生時期は、6 月、7 月、8 月の 3 か月間で全体の 8 割以上を占めていること。

(別添 2 参照)

2 事業者団体及び各事業者への呼び掛け等

- (1) これから、梅雨を迎えるにかけて気温や湿度が上昇し、WBGT 値も高くなる時期となることから、それぞれの事業場において、WBGT 値など客観的な指標を用いて作業環境を把握するとともに、始業時及び就業中の労働者の体調の把握を行い、労働者の身体に大きな負担をかけないような作業計画の作成、作業指示、作業管理を行うことが重要である。
- (2) 沖縄労働局では、建設業や運送業、警備業などの屋外型産業を中心に熱中症対策の徹底について、業種団体等を通じて呼び掛けるとともに、各事業場に対しても説明会や個別指導等を実施していく予定。

<呼び掛ける主な内容 (別添 3 参照)>

- ① 暑さ指数(WBGT 値)を低減すること
- ② 熱への順化期間（暑さに体を慣らすための期間）を設けること
- ③ 休憩場所を設置し、水分・塩分の補給を容易に行えるよう飲料水等を備え付けること
- ④ 睡眠不足、体調不良、前日の飲酒は熱中症になるリスクを高めること

<添付資料>

別添 1 沖縄労働局管内における熱中症による労働災害発生状況（令和 2 年、休業 4 日以上）

別添 2 热中症による労働災害発生状況（平成 23 年以降、休業 4 日以上）

別添 3 「STOP ! 热中症 クールワークキャンペーン」（リーフレット）

（参考：関連情報）

職場における熱中症予防/厚生労働省

職場で取り組んでいただきたい事項や熱中症に関する労働衛生教育等について掲載されています。

令和 3 年「STOP ! 热中症 クールワークキャンペーン」を実施します

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17076.html

別添1

沖縄労働局管内における熱中症による労働災害発生状況(令和2年、休業4日以上)

番号	所轄署	災害 発生日	業種	年齢	性別	被災 程度	災害発生状況
1	那覇(南部)	令和2年6 月初旬	運送 業	20代	男	6日	倉庫構内で、コンテナから荷物を取り出す作業中、顔色が悪く問い合わせに応答も弱かったため救急車を手配し病院に搬送したところ熱中症と診断された。
2	那覇(南部)	令和2年6 月中旬	運送 業	50代	女	14日	構内作業中に体調を崩し救急搬送したところ、熱中症と診断された。
3	沖縄(中部)	令和2年6 月中旬	その 他	40代	男	8日	調理師としてキッチンで業務に従事。キッチン内の温度が高く、熱中症を訴え、勤務終了後に病院を受診した。
4	沖縄(中部)	令和2年6 月中旬	運送 業	70代	男	9日	倉庫隣の屋外で、引っ越し貨物を入れる木箱作成の作業中、フラフラした状態で歩いていたことから帰宅を指示。翌日まで自宅療養するも体調が回復しなかったため病院を受診した。
5	沖縄(中部)	令和2年6 月中旬	商業	60代	男	6日	午前中にヤード内の草刈り作業に従事。昼に体調不良を訴え帰宅。翌日も体調不良が続いたため、病院を受診したところ熱中症と診断された。
6	那覇(南部)	令和2年7 月初旬	運送 業	30代	男	10日	引っ越し作業中に足と腕が痙攣し動けなくなつたため救急搬送し、熱中症と診断された。
7	那覇(南部)	令和2年7 月中旬	建設 業	30代	男	7日	外壁サイン設置工事作業中、体のだるさを申し立てたことから、救急車で緊急搬送したもの。
8	那覇(南部)	令和2年7 月下旬	商業	70代	男	12日	屋外ヤードで足場架設に使用する木材の整備作業をしている際、指がつり、次第に体全体がつり始めたため、病院を受診し、熱中症と診断された。
9	那覇(南部)	令和2年7 月下旬	建設 業	30代	男	7日	コンクリート打設後に墨出し作業を行っていたところ、体調不良を訴えたため病院に搬送、熱中症と診断された。
10	沖縄(中部)	令和2年8 月初旬	建設 業	40代	男	2か月	建設現場にて配筋作業を行い、その日の作業終了後、休憩所で帰宅準備をしていたところ、体が痙攣し、意識を失った。救急車で病院に搬送し、熱中症と診断された。
11	名護(北部)	令和2年8 月中旬	クリー ニング 業	70代	男	5日	工場内でアイロンによる仕上げ作業中に倦怠感を感じ、気分が悪くなつた。
12	八重山	令和2年8 月中旬	商業	20代	女	4日	屋外で事故車の整備作業をしていた。日差しが強い状況の中での作業となり頭痛がしてフラフラしたことから救急車で搬送した。病院で熱中症と診断された。

※ 本災害発生状況は、労働者死傷病報告による集計結果より作成したもの。

熱中症による労働災害発生状況(平成23年以降、休業4日以上)
沖縄労働局

図1 熱中症による労働災害発生状況の推移(平成23年～令和2年)

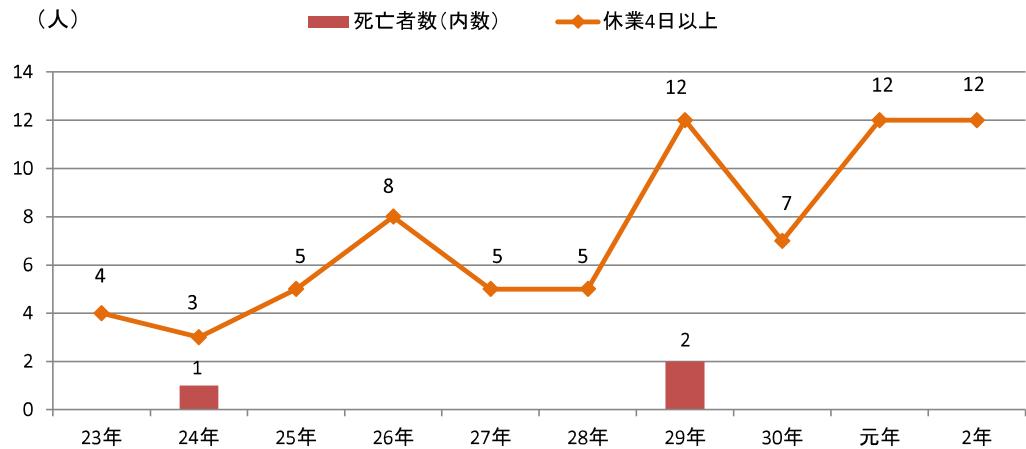
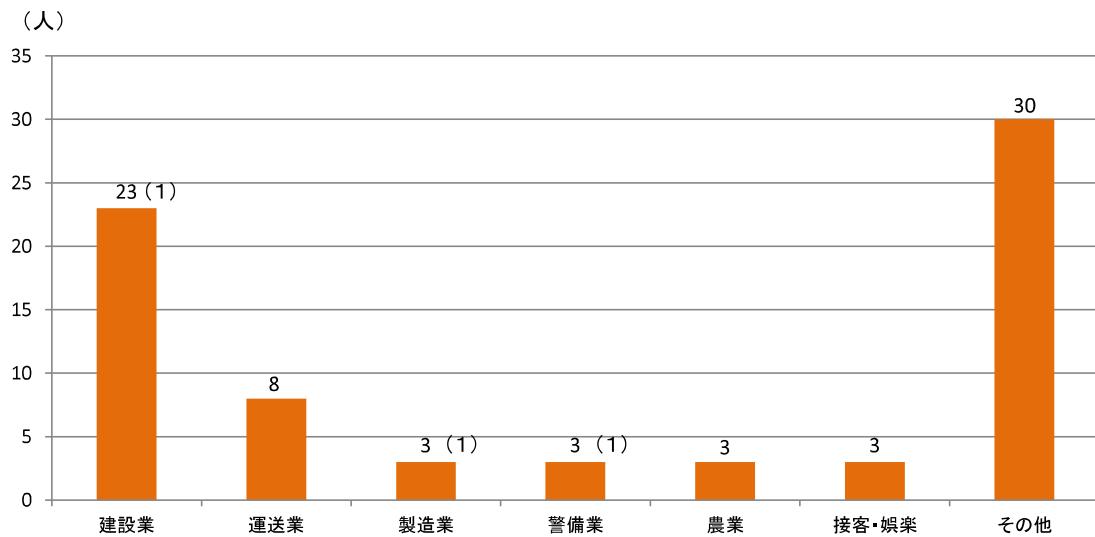


図2 業種別発生状況(平成23年～令和2年)



※()内は死者数であり、その業種の内数である。

図3 月別発生状況（平成23年～令和2年）

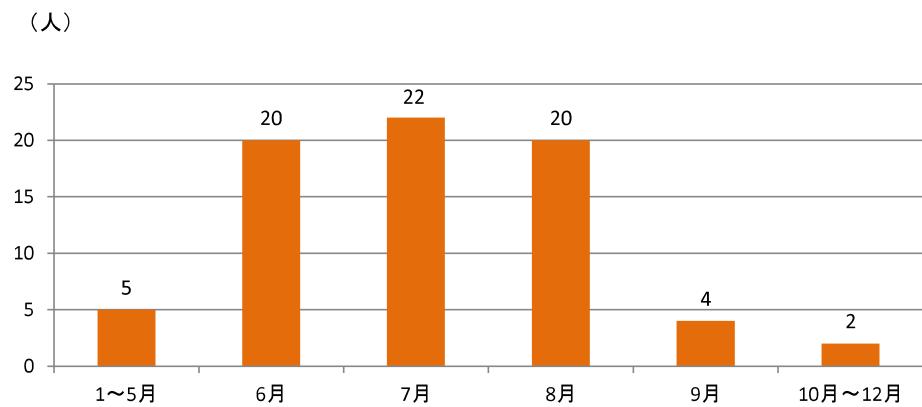


図4 時間帯別発生状況（平成23年～令和2年）

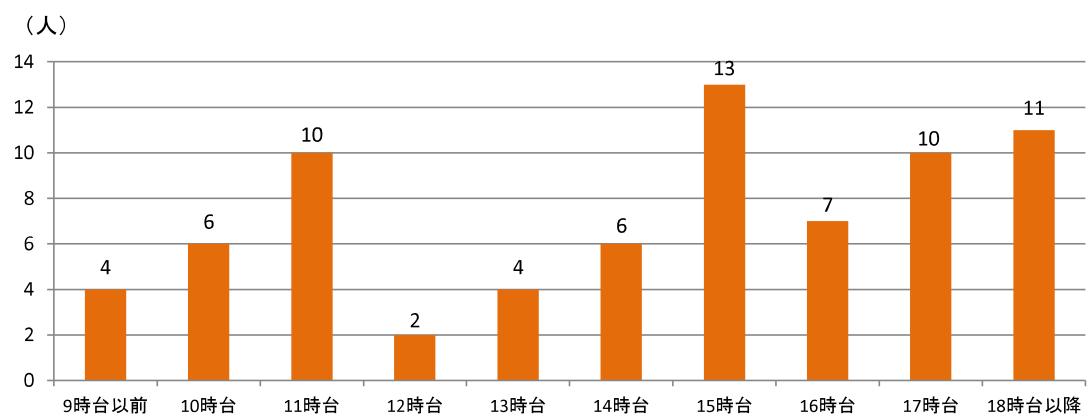


図5 年齢別発生状況(平成23年～令和2年)

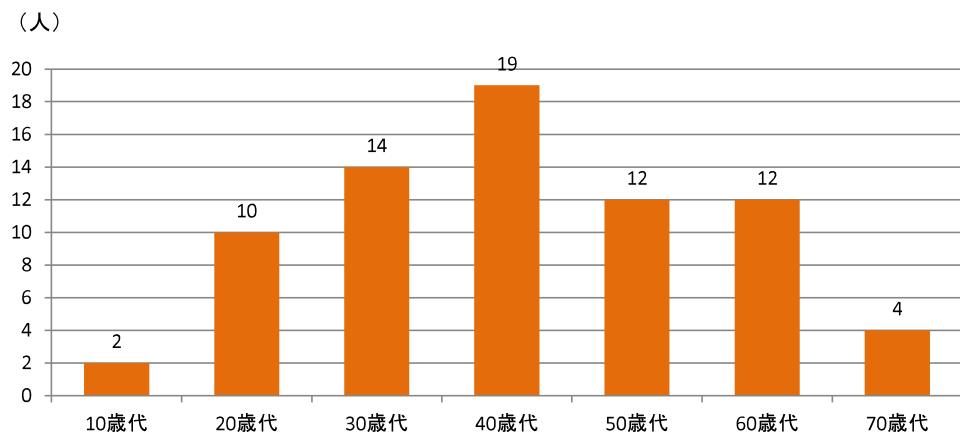
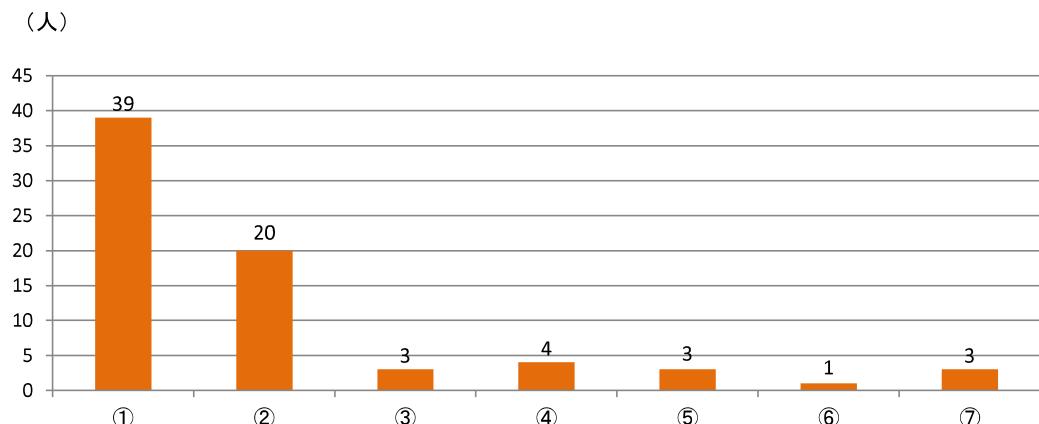


図6 休業日数別発生状況(平成23年～令和2年)



- ①: 4日以上7日
- ②: 8日以上14日
- ③: 15日以上21日
- ④: 22日以上1ヶ月
- ⑤: 1ヶ月超え3ヶ月
- ⑥: 3ヶ月超え
- ⑦: 死亡

STOP ! 熱中症 クールワークキャンペーン

— 热中症予防対策の徹底を図ろう —

令和3年5月～9月

職場における熱中症により、毎年約**20人が亡くなり**、**約1,000人が4日以上仕事を休んでいます。**
夏季を中心に「STOP ! 热中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防に取り組みましょう！

事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。

- 実施期間：令和3年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



確実に実施できているかを確認し、□にチェックを入れましょう！

準備期間（4月1日～4月30日）		
<input type="checkbox"/>	WBGT値の把握の準備	JIS規格「JIS B 7922」に適合した WBGT指數計 を準備しましょう。
<input type="checkbox"/>	作業計画の策定など	WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう 余裕を持った作業計画 をたてましょう。
<input type="checkbox"/>	設備対策・休憩場所の確保の検討	簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、 WBGT値を下げる方法 を検討しましょう。また、作業場所の近くに 冷房 を備えた休憩場所や 日陰 などの涼しい休憩場所を確保しましょう。
<input type="checkbox"/>	服装などの検討	通気性の良い 作業着 を準備しておきましょう。 身体を冷却する機能 をもつ服の着用も検討しましょう。
<input type="checkbox"/>	教育研修の実施	熱中症の防止対策について、 教育 を行いましょう。
<input type="checkbox"/>	労働衛生管理体制の確立	衛生管理者などを中心に、事業場としての 管理体制 を整え、必要なら 熱中症予防管理者の選任 も行いましょう。
<input type="checkbox"/>	緊急時の措置の確認	体調不良時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（予定）



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

(R 3.3)

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP
1

□ WBGT値の把握

JIS 規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



WBGT指数計の例

STEP
2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/> WBGT値を下げるための設備の設置	準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。 休憩場所には氷、冷たいおしづり、シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。 準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用しましょう。	
<input type="checkbox"/> 休憩場所の整備		
<input type="checkbox"/> 通気性の良い服装など		
<input type="checkbox"/> 作業時間の短縮	WBGT値が高いときは、 単独作業を控え 、WBGT値に応じて 作業の中止、こまめに休憩をとる などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/> 熱への順化	暑さに慣れるまでの間は 十分に休憩を取り 、 1週間程度かけて徐々に身体を慣らし ましょう。 特に、 入職直後や夏季休暇明け の方は注意が必要です！	
<input type="checkbox"/> 水分・塩分の摂取	のどが渇いていなくても 定期的に水分・塩分 を取りましょう。	
<input type="checkbox"/> プレクーリング	休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/> 健康診断結果に基づく措置	①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢 などがあると熱中症にかかりやすくなります。 医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。	
<input type="checkbox"/> 日常の健康管理など	前日のお酒の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんととったか、管理者は確認しましょう。熱中症の具体的な症状について説明し、早く気付くことができるようになります。	
<input type="checkbox"/> 労働者の健康状態の確認	作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。	

STEP
3

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し、巡回などにより、次の事項を確認しましょう。



- WBGT値の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか

□ 異常時の措置

- ～少しでも異変を感じたら～
- ・**いったん作業を離れる**
 - ・**病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ**
 - ・**病院へ運ぶまでは一人きりにしない**

重点取組期間（7月1日～7月31日）



- 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、**作業の中止、短縮、休憩時間の確保を徹底**しましょう。
- 水分、塩分を積極的に取りましょ**う。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょ
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょ
- 少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、病院に搬送しましょ

